

# 室内

室内9月号(通巻645号)ISSN 0287-8747

平成11年9月1日発行(毎月1回1日発行)

昭和27年3月3日第三種郵便物認可

1999 No.537



インテリアの情報誌

特集＝名作椅子のある室内 塗装の基礎知識インテリア編





日本からアメリカに拠点を移して4年。いまや彫刻家として本格的に活動している五十嵐威暢さんの住まいは、ロスアンジェルズ西部のプレントウツド丘陵にある。今年に入って引越した。引越に際し、家具や自転車など「物は相当処分した」という。それでもここには、永年間に五十嵐さんのもとに集まってきた名作と呼ばれる椅子の数々が、暮らしのなかで使われている。写真（左頁）の、ロバート・ヴェンチユーリの「チップペンデールチェア」は、80年代にノル社からもらったもの。当時、チニ・ボエリの内装設計、五十嵐さんのグラフィックデザインで、ノル社は広大なショールームをつくる計画があったという。結局実現しなかったけれど、当初から好きな家具をもらえるという条件があって、選んだうち

もっと歳をとったら

五十嵐威暢



の一脚だそうだ。

「もっと歳をとつたら、徹底的に物を処分して、もっともつと小さな家に住む」のが五十嵐さんの理想である。けれども今のところ、窓の向こうにサントモニカの街と太平洋が広がるこの家を、とても気に入っているという。



この家は、62年に建てられて以来、増改築がくり返された建物で、今回全面改装している。設計は五十嵐さんの教え子でもある田中玄さん。インテリアに関しては、こうした名作椅子やアート作品のことを考えて、白を基調にしたという。ブレントウッドのこの地域は、50年代に「ケーススタディハウス」のため開発された一帯で、今でも当時の建築を守ることとても厳しいコミュニティがある。改装にしたのは、工事費が安くすむという理由もあるが、「改装ならではのつじつまのあわないディテールに慣れた。前の家は新築で、そのパフエクトなところが息苦しかったので」とは五十嵐さんの弁。

撮影 | Yoshi Hashimoto